

第7・8回

新UD出前講座のシナリオやプログラムをつくる

(1) プログラム

日 時 | 1月16日(日) 10:00～16:00

会 場 | 江東区文化センター6階 第1・2・3会議室

内 容 | 新UD出前講座のシナリオやプログラムづくり

- ・新UD出前講座のコンセプトについて事務局から提案し、そのコンセプトに関連する「尊厳や社会モデル」についてアドバイザーよりお話をいただきました。
- ・その後、新UD出前講座についてアイデアを出しあいました。

タイムテーブル |

- 10:00 (05分) あいさつ
- 10:05 (40分) 本日のプログラム、これまでのまとめ、発表の進め方の確認
- 10:45 (10分) ～休憩～
- 10:55 (65分) ●グループワーク
 - ・発表に向けて準備
- 12:00 (60分) ～昼食～
- 13:00 (15分) ●全体
 - ・発表の流れの確認
 - ・発表を見ながら、質問、良かった点やより良くなるアイデアをフセンに記入
- 13:15 (120分) ●発表
 - ・導入 10分 (絵本読み聞かせの説明)
 - ・寸劇 20分 (グループ1, 3×各10分)
質問やアイデア等 20分
 - ・寸劇、シナリオで考える 20分 (グループ2, 4×各10分)
質問やアイデア等 20分
 - ～休憩10分～
 - ・WS 10分 (グループ5)
質問やアイデア等 10分
- 15:15 (35分) 全体通しての良くなるアイデア等の意見交換
- 15:50 (10分) 今後について、事務連絡、アンケート記入
- 16:00 終了

(2) これまでのアイデアの整理 (○付数字はグループ番号)

これまで出たアイデアを事務局で整理して、参加者と確認しました。

●江東区のUDまちづくりで大切にしてきたこと

- ・尊厳、平等がUDまちづくりの基本
- ・私の当たり前と、みんなの当たり前は同じとは限らないという気づき
- ・「やりたいことを実現する」ことが目的
→「目的は同じ、やり方が違う」

●今年度ワークショップで各グループの議論からみえてきたこと

(1) 子どもたちへの問いかけの例

- ▶ UDまちづくりは「誰もが使いやすいまちをつくる」こと。どうやったらできるのかな？
- ・相手に聞いてやってみよう。①
- ・少ない意見の人とも一緒に考えられるかな。②
- ・自分の当たり前は他の人の当たり前と同じかな。③
- ・人の目が気になってできないことはあるかな、相手に聞いてみよう。④
- ・自分にとっての使いにくさは何かな、相手にとっての使いにくさは何かな。⑤

(2) 伝えたいポイント

1) 見た目による決めつけはなぜいけないのか①②④

- ・その人がいないものとして「まち」が考えられたりつくられたりしてしまう。
- ・いろいろな人が住む「まち」はいろいろな人がいることを前提として考えることが必要。
- ・単一な軸だけで考えると、その多様性（豊かさ）が無くなる。
→ 尊厳・平等、より多様な人への対応

2) やれば良いのか、モノがあれば良いのか（目的は何？）①⑤

- ・買い物をする、楽しく過ごすなどその人がやりたいこと、目的を達成できるか。
→ 目的の達成、合理的配慮

3) UDまちづくりの「誰もが」とはどういうことか②⑤

- ・みんなが議論に参加することがなぜ必要か。
- ・自分ごとにして考え、相手の立場で考えることで、みんなが使える工夫ができる。
→ 合理的配慮

4) 環境によって立場が変わる③

- ・「多数」が変われば立場が変わる。
- ・「障害」とは、ひとつの側からの見方にすぎないかもしれない。
→ 社会モデル

5) 相手の立場を理解して多様な手法を使う③⑤

- ・当たり前が人によって違うことがある。
- ・みんなが使える工夫ができる。
→ 合理的配慮

(3) グループの寸劇やプログラムの内容

1グループ

<相手に聞いてみよう>

- ◎見た目による偏見と決めつけ（見えない人、車いす使用者はこういうものだ）。
- ・見えない人は危ないから、必ず手伝う必要がある？
- ・どうせ見えていないからこっそり後からついていってもわからない。
- ・車いすの人は必ず助けられる存在。
- ◎自分はやっているから（見守っていたから）良いという責任逃れ（目的は何？）。
- ・一人で行けると言われても「こちらの責任になります」といって認めない。
- ・行動を他人に決めつけられてしまう。

2グループ

<少ない意見の人とも一緒に考えられるかな>

- ◎一方的に決められ、決め事に自分が参加できない。
- ・今日はカレーだぞ。（大人の場合は）とりあえずビール。
- ◎見た目による偏見と決めつけ（こどもはカレーが好きなモノだ）。
- ・多様なはずの選択肢の可能性が少なくなる（カレールーを入れる前にシチューにもできたはず）。

3グループ

<自分の当たり前は他人の当たり前と同じか>

- ◎多数派によるルールややり方で決まってしまう（立場が変わると良くわかる）。
- ・わからない人がいても多数の人で物事が決

まってしまう。

◎環境が変わると立場が変わる。

- ・声で話す人と、手話で話す人の人数が変わると、立場が変わる。
- ◎相手の立場を理解できれば多様な手法を使うことができる。
- ・レジ袋が必要か聞く時に声だけで確認してしまうが（知っていれば）レジ袋が必要か聞く時に指でさして選べるようにできる。

4グループ

<人目が気になってできないことはあるかな、相手にきいてみよう>

- ◎見た目による偏見と決めつけ（元気な人や元気に見える人は座らない方がよい）。
- ◎失敗を怖れずにやってみよう！
- ・見た目で体調がわるい事がわからない人が電車の優先席に座っていると周りの視線が痛い。
- ・妊娠初期の人が座りたくてもゆずってもらえない。
- ・高齢者は座るものだ。

5グループ

<自分にとっての使いにくさは何かな、相手にとっての使いにくさは何かな>

- ◎使いやすさとは何かを自分ごととして考える（「誰もが」とはどういうことか）。
- ◎相手の立場の使いやすさを考える。
- ・あなたにとってどれが使いやすい、使いにくい？
- ・それでは、他の人はどうかな？ 見えない人は？ 見えにくい人は？ 方向がわかりにくい人は？ はじめての人は？



(3) グループワーク | 新UD出前講座のシナリオやプログラムづくり

前回話し合った内容に、事務局が整理を加えたシナリオやプログラム案を元に、グループワークでさらにシナリオやプログラムの詳細を検討しました。

1) 寸劇案

●寸劇案1 (1グループ)

お手伝いの声かけ1

通行人 「どちらへ行かれますか？」

白杖の人 「駅まで行きたいんですが」

通行人 「私も同じです。ご一緒にします」

白杖の人 「ありがとうございます」

通行人 「どうすればよろしいですか？」

白杖の人 「杖を持っていない側に立って、ヒジの少し上を掴ませてもらっていいですか。これをお願いします」

～雑談～

通行人 「駅に着きました」

白杖の人 「ありがとうございました」

お手伝いの声かけ2

通行人 「どちらへ行かれますか？」

白杖の人 「駅まで行きたいんですが」

通行人 「私も駅まで行くので、ご一緒にしますか」

白杖の人 「あっ、でもこの道毎日通っているので大丈夫です。ありがとうございます」

通行人 「そうですか、ではこれで」

お手伝いの声かけ3

通行人 「どちらへ行かれますか？」

白杖の人 「駅に行きたいんです」

通行人 「ご案内しましょうか？」

白杖の人 「慣れているので大丈夫です」

通行人 「そうですか、、、ではお気を付けて」

白杖の人 「はい、さようなら」

通行人 (そうは言っても1人で大丈夫かな? 心配だからついて行こう)

通行人 「無事につきました」

白杖の人 「えっずっとついてきていたの!」

解説

・司会 | 3つのパターンを見てもらいました。「お手伝いの声かけ1」の白杖の人の感想を聞いてみましょう。

白杖の人 | ちょうど同じ方向に行くとのことで、一緒に歩いてもらいました。ガイド方法も聞いてくれて、あの方法だと私の一歩前を歩くことになるので安心です。はじめてお会いする方ですが、雑談しながらの楽しい時間でした。

- ・司会 | 「お手伝いの声かけ2」の白杖の人の感想も聞いてみましょう。お手伝いが必要なかったようで、その旨を伝えたらさっと離れて行かれましたね。
白杖の人 | 毎日通って慣れている道ですので、大丈夫でした。
- ・司会 | 「お手伝いの声かけ3」の白杖の人は、ビックリされているようでしたね。
白杖の人 | 「大丈夫です、さようなら」と伝えなのに駅で声をかけられたので、どうやら黙ってついてきていたんだと思うのですが、ついてきていたことに気がつかなかったので驚きました。
- ・司会 | 3つのパターンを見ていただきました。みなさん、どんな感想を持ったでしょうか？

お手伝いの声かけ4

- 車いす使用者 | 「どちらへ行かれますか？」
 - 白杖の人 | 「この信号を渡ろうと思っていて」
 - 車いす使用者 | 「私と一緒に渡りますか？」
 - 白杖の人 | 「お願いします」
 - 車いす使用者 | 「車いすの後ろのハンドルに捕まってください」
 - 白杖の人 | 「車いすの方なんですネ！」
 - 車いす使用者 | 「青になりました、渡ります」
- ・司会 | 「お手伝いの声かけ4」の白杖の人の感想を聞いてみましょう。
白杖の人 | 健常者にお手伝いしてもらうことが多いですが、車いすの人も私をサポートすることができます。
 - ・司会 | 小学生のみんながまちで出会った時に、できる声かけはありますか？
白杖の人 | もしまちで視覚障害者を見かけて、一緒に歩くことはできなくても、目の前に自転車があったら「自転車があるから右に避けて」と声で教えてくれるととても嬉しいです。
白杖の人 | 音の出ない信号機はまだまだあります。そんな時は「青になったから渡れますよ」「赤だから気をつけて」と教えてくれると助かります。

体験

- ・司会 | では、ここで声かけの体験をやってみたい人はいますか？



●寸劇案2（2グループ）

みんな大好きなハズ？ 1

ナレーター この週末、地域のイベントで子どもたちに食事を出す相談がされています。

スタッフ1 「やっぱりカレーでしょう。子どもはみんなカレーが大好きだし！」

スタッフ2 「大量に作るならカレーが作りやすいよね。でも、時々食べられない子もいるのよ」

スタッフ1 「そうなんだ、どうしようか」

ナレーター スタッフの人が悩んでいるようです。

みなさんだったら、こんな時、どうしたらいいと思いますか？

児童に聞く

ここのスタッフは、次のような工夫を考えたようです。

スタッフ2 「基本はカレーにして、食べられない子にはなにか工夫ができないかな。。。」

スタッフ1 「カレールーを入れる前のスープを少しとっておいて、カレーが食べられない子がきたら、スープにシチューのルーを入れて出そうか」

スタッフ2 「ああ、その方法いいね。前日にカレーを食べたばかりの子もいるかも知れないし」

スタッフ1 「シチューのお鍋も用意して、好きな方を選ぶようにしておこう」

スタッフ2 「そうね、そうしよう」

ナレーター まとめ

みんな大好きなハズ？ 2

ナレーター 広場では、子どもたちが遊ぶ相談をしているようです。

子ども1 「鬼ごっこしようよ！」

子ども2 「いいね～！やろう、やろう！」

子ども3 「僕、早く走れないから、すぐ捕まって鬼になっちゃうから嫌だ！鬼になったら、みんなを捕まえないし…」

ナレーター みなさんだったら、こんな時、どうしたらいいと思いますか？

児童に聞く

この子どもたちはこんな遊びを考えたようです。

子ども3 「走らないで良いように、隠れんぼうはどう？」

子ども1 「でもここ、どこにも隠れるところないよ。やっぱ鬼ごっこしようよ！」

子ども2 「じゃ、走らないで鬼ごっこしようよ！みんな早歩きでやるのはどう？走ったら罰で鬼になるルールを入れよう」

子ども3 「それなら大丈夫かも！面白そう。やってみよう」

ナレーター まとめ



●寸劇案3（3グループ）

「私の当たり前」と「あなたの当たり前」

2人の人が立っています

※メンバー1（聞こえる人）とメンバー4（聞こえない人）だが、聞こえる聞こえないの状況はまだわからない。

シーン1

グループ1 | 声でおしゃべりする2人がやってきて合流する。

ナレーター 午前中のUD会議が終了したようです。参加メンバー4人が話しています。

メンバー1 おなかすいた～、ランチどこに食べに行く？

メンバー2 私もペコペコ、美味しいものが食べたいわ。

メンバー3 和食屋さんでいいところあるわよ、どう？

メンバー1 いいね！

メンバー4（困ったな～という表情だけど、微妙にうなづく）

シーン2

グループ2 | 声でおしゃべりする2人が去り、手話でおしゃべりする2人が合流する。

ナレーター 別の日です。今日の午前中のUD会議が終わったあとは、こんなメンバーが話しています。

メンバー4 手話 | 午前中の会議、疲れたね～。

メンバー5 手話 | お昼ご飯、どこにしようか？

メンバー6 手話 | うどんはどう？ 美味しい店を知っているよ。

メンバー4 手話 | 一緒に行く！

メンバー1（手話で何を話しているんだろう。ランチに行くんだよね）

ナレーター お店が決まったようで、移動していきました。

ナレーター さて、2つのシーンを見て、気がついたことはありますか？
児童に聞く

実はシーン1では1人耳が聞こえない人がいて、シーン2では1人手話ができない人がいました。どちらも「ランチにどのお店に行くか」という同じ話をしましたが、「自分の当たり前」がみんなの当たり前かどうかで状況が違いましたね。それぞれのシーンに登場した人に感想を聞いてみましょう。

シーン3

ナレーター 最初のグループの人に戻ってきてもらって、お話を聞いてみましょう。耳が聞こえない人はどなたですか？

メンバー4 ジェスチャー | はい

ナレーター みなさんのお話、わかりましたか？

メンバー4 手話 | いいえ、わからなかったんです。でも、一緒に行った方がいいかなと思い、ついていただけなんです。

ナレーター 他の3人の方は、聞こえない人がみなさんのお話がわかっていなかったようなのですが、どう感じていましたか？

メンバー1 雰囲気でわかるかなと思いました。

メンバー2 もしかしてわからないかなと思ったのですが、みんなで行こうという雰囲気だったので、行きました。

メンバー3 仲間はずれにしないで一緒に行ったので、それでいいかなと思いました。

ナレーター そうなんです。では、耳の聞こえない人は、本当はどうして欲しかったのでしょうか？

メンバー4 わからなくても「うんうん」と頷いてしまったのですが、本当は「筆談してください」と言った方が良かったかなと思いました。

ナレーター 少し工夫してもらえれば良かったかなと思ったんですね。

シーン4

ナレーター では、もう一つのグループにも聞いてみましょう。

手話がわからない方がいらっしまったようですが、どなたですか？

メンバー1 はい

ナレーター いつもは声に出して話をしていると思いますが、先ほどの話はわかりましたか？

メンバー1 全くわからなかったのですが、ランチに行くのかなと思って、ついていきました。

ナレーター では、手話で話す人に聞いてみましょう。どうやったら手話ができない人とうまく話すことができると思いますか？

メンバー6 手話 | いろいろ方法はあると思いますが、身ぶりなどで表現してくれるといいかなと思います。

ナレーター では先ほどのランチを相談しているシーンをもう一度やってもらいましょう。

メンバー4・5・6 手話 | ランチの相談、どこに行く？

メンバー1 ジェスチャー | ストップストップ、書いて。OK！握手

ナレーター 無事、ランチに行くようです。

ナレーター まとめ

●寸劇案4 | コンビニのレジで(3グループ)

ーここはとあるコンビニです。お客さまがいらっしまった。

店員 いらっしませ

お客 (商品を探して、レジへ)

店員 以上ですか。レジ袋はいりますか？

お客 ?

ーなかなか伝わらないようです。

お客 (ジェスチャーで「書いてください」)

店員 筆談で「レジ袋は？」

お客 (ジェスチャーで「いる」)

店員 あっはい、ありがとうございました。

ーお客さんが帰ったあと、店員さんがあるものに気がつきました。

店員 (振り返る) こんなところに、こんな表があったぞ

ー店員用のレジ袋の種類と金額が書かれた表です。翌日、同じお客さんがきました。

店員 いらっしませ

ー店員さんは「ラッキー」と思っています。

お客 (商品を探して、レジへ)

店員 レジ袋はいりますか？(用紙を見せる)

お客 (「中」の袋を指さす)。手話でありがとうございます。

ー今日はシートを使ってスムーズにコミュニケーションがとれました。



2) ロールプレイ

●シナリオ案 | (座っている人A / 立っている人B) (4グループ)

導入 | 席を譲ってあげましようと言われるけれど、いざとなるとどうやったらいいかわからずドキドキしちゃう。でも決まったルールはないよ。これからカードを使っていろいろなシチュエーション別にどうするか練習してみよう。

進め方 | 2人1組で、あるいは数名のグループになって考える。

(1) 席を譲られたけれど、この大荷物どうしよう??

A: どうぞ。

B: (荷物が大きいから、座っても膝の上に置ききれないな。どうしよう)
・・・セリフを考えてみよう・・・

A: ・・・Bの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

(2) 小学生とおじいさん

A: (男子小学生が座っている)

B: (75歳ぐらいのおじいさんが立っている)

A: 元気に「どうぞ」と立つ。

B: 座ったら立つ時つらいから、良いよ。ありがとう

A: にこり・・・心の声を考えてみよう・・・

(3) 小学生の前に大きなカートを押して右往左往しているおばあさん

A: (小学生が座っている)

B: (大きなカートを押して通路をうろうろしているおばあさん)

A: ・・・心の声を考えてみよう・・・

B: ・・・Aの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

A: ・・・Bの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

B: ・・・Aの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

(4) 優先席でないと座っていたら、前に杖を持った人が立った

A: (ここだったら譲ったりする心配がなさそうだな、ホッ)

B: (杖をつきながらAさんの前にゆっくり立つ)

A: ・・・心の声を考えてみよう・・・

B: ・・・Aの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

A: ・・・Bの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

B: ・・・Aの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

(5) 足腰のために立っていたかったけれど、譲られた

B: (座ってばかりじゃ健康に良くないな。一般席の前だったら譲られることもないだろうと吊革につかまっている)

A: どうぞ (とBに席を譲る)

B: ・・・心の声を考えてみよう・・・

A: ・・・Bの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

B: ・・・Aの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

(6) 具合が悪いから優先席に座っていたら、だんだん混んできてしまった

A: (今日は調子が悪いな…。あ、優先席だけれど、座れてよかった)

B / 集団: どんどん混んできてくる ※何人かで混んでいる状況を演出する。

A: ・・・心の声を考え、どんな対応をしたらよいか考えてみよう・・・

(7) 妊娠初期だとわかってもらえない

A：(つわりがひどいなあ。座れるといいのになと思いながら吊革につかまる)

B／集団：だれも譲る気配無し ※複数人が座って思い思いに過ごす状況表現してみよう。

A：・・・心の声を考え、どんな対応をしたらよいか考えてみよう・・・

(8) 面倒だから立っちゃおう

A：(結構すいているけれど、座ったときに限って席譲ることになっちゃうから面倒だから立っちゃおう)

B／集団：・・・Aの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

A：・・・Bの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

(9) 荷物を持つわよと言ってくれたけれど

A：(初老の女性がバスに乗ってきた)

B：どうぞ(と席を譲る)

A：ありがとう。あなたの荷物を持つわよ。

B：(結構この荷物重いんだよな。貴重品もあるし。どうしよう)

A：・・・気持ちよく荷物をもってあげられるようなセリフを考えてみよう・・・

B：・・・Aの動きを元にどう返すか考えてみよう・・・

(10) 何で譲られたのかな？ このパターンは最後にやると良い？！

A：(私は弱視だけれど、見た目じゃわからない。ヘルプマークをつけても席を譲ってほしいわけじゃないからつけないの。)

B：(外国籍の人。Aに席を譲る)

A：(驚いて。勇気を振り絞って)なんで席を譲ってくれたんですか？

B：・・・譲った理由を考えて、セリフを言ってみよう・・・

※このバージョンは、実際のBの答えを解説。国や文化の違いで、席を譲る基準って違うんだ。みんなもそれぞれ違うのかも？？基準ってあった方が良いのかな？？



3) ワークショップ

●「ユニバーサルなサイン板を考えよう！」ワークショップ(5グループ)

目的：子どもたちが、UD（や多様性）に関する理解を深め、自分ごととして考え行動する、を養う。

他（裏）の目的：解決策やルールを頭に詰め込むのではなく、自ら考える力を養う。（子ども同士や相談員との対話をベースとした発見型のWS）

1. あいさつ（5分）

2. これは見えやすいかな？（10分）

- ・ 様々なサインの事例を見ながら、自分にとって見やすいかどうかを考え伝えあう。

3. 「子どもたちが考える、使いやすい・・・をつくろう！」（40分）

- ・ 子どもがグループ（例えば6人）に分かれる。
- ・ 子どもが6人全員にとって使いやすい・・・をつくるため話し合う。
- ・ その際に、相談員にもグループに入ってもらい、一人ひとりの主体性を引き出す（自分ごととして考えてもらう）ための質問（例えば、君にとってはどうなの？など）を投げかける。子どもたちの考える力や創造力の育成を意識することが大切。
- ・ グループメンバーの子どもたちにとって使いやすい・・・を考えるが、「UDのお話」を聞いて、他の人（視覚・聴覚障害者、車いす使用者、発達障害、妊婦、ベビーカーを押す人、外国人など）の視点を取り入れることも可能（場合によっては、グループワークの後半で、相談員が体験談などを織り交ぜ、他の人の視点を取り入れることを積極的に推進する）。

4. 発表と意見交換（15分）

- ・ 全部の発表後に全体に対する意見交換を行うのではなく、それぞれの発表後に都度意見交換（質疑応答含む）を行うイメージ。意見交換では、ダメ出しではなく、できる限り「良かった点」や「こうすればもっと良くなるのでは」を出し合う。

5. 既存の「サイン板を見て触ってみよう！」写真や寸劇でサイン板を紹介（15分）：

例えば、

- ・ 小学生：サイン板の漢字にふりがながついている。サイン板が低い位置にある。
- ・ 車いす使用者：斜めのサイン板だと見にくい。サイン板が高い位置にあると見にくい。
- ・ 視覚障害者（弱視）：地図のバックが黒の方がいい。線が細いと見にくい。音があると分かりやすい。点字がある地図はどうか？
- ・ 外国人：地図のマーク（例えば郵便局のマーク〒）は分からない。など

寸劇案

1. 地図を二人で手前を低く奥を高く斜めに持ち、車いすの人が座った状態だと見にくいと言う。
2. 地図の手前にテーブルを置き、遠くて見えないと弱視の人が言う。植え込みの中、地図の手前にベンチや自転車が置かれている場合など。
3. 地図の一部が視線の高さより高くなるように掲げ、視線より上は見えないと言う。
4. 地図の記号で郵便局の〒は、戦前の通信省のカタカナ表記のテが元になっているから外国の人は分からない。交番の×印、学校の文など日本独自のサインがいろいろあることを言う。
5. 南砂町の地図を見せて、白黒の地図より南砂町の地図がとても見やすいと言う。

6. まとめ（5分）

